

coreOUT-Amp2 (Code 7720) パワーアンプボード



labCOREの背面パネル、coreOUT-Amp2ボード2つの例

概要

coreOUT-Amp2 は labCORE の為の 2 チャンネルパワーアンプを搭載した拡張ボードです。送話方向の測定用にダミーヘッド HMS II.3 の疑似マウス用のアンプ機能を提供します。また、オプションで 2 x 20 ワット RMS クラス D アンプがシングルドライバーの小信号測定や小型パッシブスピーカーの低パワー測定等の低パワーアプリケーションにも役立ちます。labCORE は最大 2 つの coreOUT-Amp2 ボードをサポートします。

解説

coreOUT-Amp2 は 2 つのスピーカー出力により labCORE を拡張します。coreBUS とともに搭載し、labCORE の背面パネルに coreOUT-Amp2 ボード用の 2 つのポートが追加されます。各アンプチャンネル 20 ワット RMS (条件により最大 25 W_{RMS}) です。ボード 1 つでダミーヘッド 2 つの同時利用が可能です。coreOUT-Amp2 の高効率クラス D アンプ技術によりコンパクトなボード構成と入力信号の高精度再生を実現しました。オプションでパラメーターやインピーダンス測定またはモニタリング等、低パワーシナリオでのシングルドライバーや小型スピーカーへのパワー供給も可能です。出力は 4ピン speakON 端子を備え疑似マウスまたはスピーカーの 2 台同時接続が可能です。coreOUT-Amp2 は labCORE の内部に基板として挿入される為、信号経路が最短となり、外部機器やケーブルを媒体とした出力信号への障害を防ぎます。

主なフィーチャー

- 2 x 20 ワット RMS (4Ω 増幅時)
- 安全かつ使い勝手のよい 4ピン speakON 端子
- 低歪、低固体ノイズフロア
- 外部機器やケーブルによる信号障害の最小化

アプリケーション

- ボード 1 つにつき最大 2 つの疑似マウスにパワー供給
- シングルドライバーや小型パッシブスピーカー等低パワーアプリケーションのパワー供給 (ドライバーパラメーターやインピーダンス測定、近接モニタリング等)

一般要件

ハードウェア

- labCORE (Code 7700)
モジュール式多チャンネルハードウェアプラットフォーム
- coreBUS (Code 7710)
labCORE I/O BUSメインボード

ソフトウェア

- ACQUA (Code 6810)
ACQUA 標準: ベーシック分析ソフトウェア
フルライセンスバージョン

納品アイテム

- coreOUT-Amp2 (Code 7720)
labCORE パワーアンプボード
- labCORE と同時納入の場合は labCORE に coreOUT-Amp2 が搭載された状態で出荷されます。
- 後付けの場合は搭載作業の為に labCORE を一度返送頂きます。
- CSB III (Code 6095)
アダプター speakON <-> 4 x banana プラグ (メス)

Technical Data coreOUT-Amp2	
Channels	2
Connection	speakON NL4
Output power	+20 dBV (10 V _{RMS}), max. 25 W _{RMS} at 4 Ω, max. 12.5 W _{RMS} at 8 Ω
Load impedance	3 Ω ... 8 Ω
Amplifier type	Class-D
Level accuracy	±0.1 dB (1 kHz, 4 Ω)
Flatness	±0.5 dB (20 Hz - 15 kHz) ±1.0 dB (20 Hz - 20 kHz)
S/N	100 dB (20 Hz - 20 kHz)
THD+N	< -90 dB (1 kHz, 4 Ω)
Crosstalk	< -110 dB
Digital resolution	32 Bit
Sampling rates	48 kHz, 96 kHz
Typical power consumption	3.5 Watts + output power